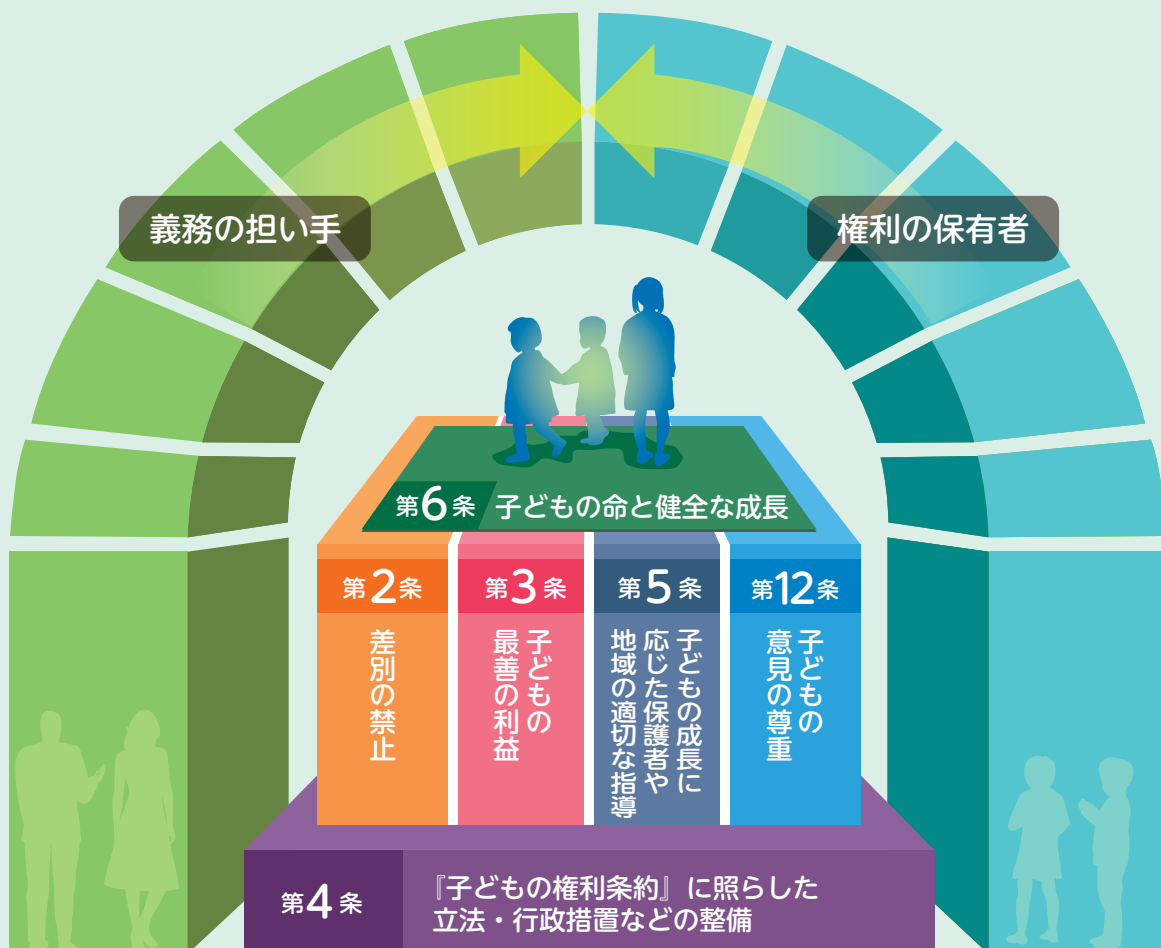


人権のアーチ (The Arch of Human Rights)

「権利の保有者」と「義務の担い手」の均衡と支えあいの人権が実現する

アーチは、古くはヨーロッパの水道橋や鉄道橋の建築に使われ、また建物も支えることができる強固な建造物です。しかし、左右が均衡を保ち互いに支えあっていないと、崩れてしまい機能しません。このアーチの構造のように、人権の実現のためには「権利の保有者」と「義務の担い手」の間の尊重と支えあいが欠かせません。「人権のアーチ」は、この相互の均衡と尊重の上に人権が実現されていくことを、一つのモデルとして表しています。「子どもの権利」を考えると、子どもたちは「権利の保有者」であり、国や社会、そして子どもに関わるおとなたちが「義務の担い手」となります。国やおとなが「子どもの権利」を守り、子どもたちが自分の権利を実現できる社会。そして、おとなも子どもも共に尊重しあえる社会を、このアーチは描いています。



子どもだからこそ必要な土台

成長途上にあり、おとなに比べ弱い立場にある子どもたち。「人権のアーチ」に加えて、「子どもの権利」を実現するためには欠かすことのできない、『子どもの権利条約』のいくつかの条項があります。上の図に描かれている台の上の子どもたちがしっかりと立っていただけること、つまり、子どもの命が守られ、健やかに成長できるためには、子どもたちを支える土台がしっかりしていなければなりません。